



## ジェネックス今月のトピックス♪



### 脱炭素社会に向けての動き

今、世界各国は「パリ協定」に基づき、今世紀後半に二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする“脱炭素革命”に向け動いています。世界のビジネス界でもその動きを注視しております。なぜなら温暖化対策により行われる再生可能エネルギーの普及拡大、ガソリン車からの急速なEVシフトなどを大きなビジネスチャンスと捉えているからです。ウォール街の投資の流れは“脱石炭”に変わり、温暖化の取り組みをしている企業に投資が集まっています。昨年、11月にドイツ・ボンで開かれたCOP23には、政府が脱退表明しているアメリカ企業や、脱炭素のリーダーをめざす中国など世界中のビジネスマンが集まって情報を収集しています。それに対して、日本は再エネの普及や各企業の温暖化対策も進んでおらず世界の潮流に完全に乗り遅れています。2018年は脱炭素に向けた動きが日本国内でも活発になっていってほしいものです。

◆14年策定の30年エネルギー基本計画、その進捗(2016年度時点)

#### ①CO2削減のシナリオ

(30年目標:ゼロエミ電源比率44%)  
⇒13年10%から17%へ  
(再エネ15%、原子力2%程度)

#### ②エネルギー自給率向上のシナリオ

(30年目標:自給率24%)  
⇒13年6%から8%へ

#### ③コスト抑制のシナリオ

◆パリ協定

2050年の温室効果ガス削減について、先進国は極めて野心的な高い目標を共有

	日 (13年比)	米 (05年比)	加 (05年比)	独 (90年比)	仏 (90年比)
30年	▲26%	▲26~28%	▲30%	▲40%	▲40%
50年	▲80%	▲80%	▲80%	▲80~95%	▲75%

※日の50年目標の基準年は未定  
※米の05年比▲26~28%は25年目標

◆各国の共通要素

技術革新(原子力、再エネ、CCS、省エネ等)

海外での貢献

人材開発、投資加速

### COOL CHOICE



COOL CHOICEとは、暮らしに関わるもの、家電、車、住宅などをCO2排出量が少ないものを選んでいこうと環境省が推進している脱炭素に向けての国民運動です。

浜松市は、このCOOL CHOICEに賛同し昨年末に次世代自動車のニッサン「LEAF」、トヨタ「PRIUS PHV」、「MIRAI」の試乗会を市内の道の駅で開催しました。

中国や欧州はEVの開発を加速させています。

恐らくハイブリッド車が普及したスピードよりも速くEVが普及していくのではないかと思います。



### ～ 笑顔プロジェクト 2017 クリスマス ～

昨年12月笑顔プロジェクトの一環としてオリーブの子供たちにプレゼントを配りました。まっすぐな子供たちの表情をみて、パワーをもらえました。今後も地域との繋がりを大切にしていきたいです。



※地代や賃借料の払い忘れにお気を付け下さい※

※発電所の草刈は年2回がベストです※

「ジェネックス通信」毎月1回発行「いつでもお問い合わせください。」